

“Sports for Life”こそ“Sports for All”！

杉山 隆司(サンスーシ)

「一緒にマスターズでノルウェーに行きましょうよ」

村越のその一言に心を揺り動かされて、実に 20 数年ぶりにまた走りだしてしまった。ゴルフオヤジ化した腹ボテを走れる身体に戻すのも大変だが、全盛期の様なモチベーションをどこに求めれば良いのか？それは勝つべきレースで勝つこと意外に無い。そこで、マスターズへ向けてのビルドアップのために、24 年ぶりに全日本大会に参加してみた。が、何か変だ、エキサイトメントが無い、何故なんだ？

思えば私が走っていた 1970 年代の日本では Sports for All として歩くオリエンテーリングが注目されていて、当時の私には何か違和感があった。現在では競技スポーツとしての地位も向上し、特にエリート・クラスではハイレベルなレースが展開されている。では何が足りないのか？ほのぼのとした楽しさが無くなった？いや、昨年初めて参加した WMOC（世界マスターズ選手権大会）での興奮を思い起こせば、その解は明らかだ。一言で言ってしまうと、ライバルと競う楽しさが希薄なのだ！それは、全日本大会なのに自分の年齢クラス外で出場する選手が多過ぎるからだ。決してその逆ではない！

チャンピオンシップ制を導入しよう！

勝つレースとただ良い成績を出すレースとは全然違う。私が北欧のオリエンティアから一番勉強させられたのは、誰でも明確な年間（数年間）プランを持ってトレーニングに励んでいることだ。どのレースで勝ちに行くのか、その為にそれぞれのレースをどう戦うのかも重要なプランの一部だ。

敢えて上のクラスを走るレースが有っても良い。しかし、誰でも年に一度は勝つ為のレースをするべきだ。であれば、全日本

こそその価値のあるレースではないのか？村越みたいに上のクラスでも勝ち続けられるなら別だが、ただタフなコースを走ったという自己満足の為だけに上のクラスに出てるのなら、全日本くらいは本来の自分のクラスできちんと勝つレースをするべきだ。それが皆の競い合う楽しみを高めることになり、しいては選手層全体の底上げに成るのだ。

オリエンテーリングの素晴らしさは、年齢別熟練度別のクラス分けがされていて、誰でもレベルに合った競技を楽しめること、それこそ Sports for All だ。競技とは勝ち負けを競うものだ。どんなに簡単な短いコースでも、勝つと決めて勝つには、それなりに良いタイムを出すのとは別な次元のテクニック、体力、精神力が求められる。勝つべきレースでそれが出来る人間こそが、年齢に関係なく、真のチャンピオンなのだ。

日本にもそれぞれの年齢クラスのチャンピオンを決める日本選手権大会が必要だ。最近はその様な動きもある様だが、まずは東西と全日本大会を、正式に地区選手権、日本選手権にするべきだ。

バッジ・ランクの導入を！

また、年齢クラスごとに成績向上の目標となるインセンティブ制度が必要だ。クラスごとのエリート資格とか日本ランキングでも良いが、スキーマのバッジテストの様なバッジ・ランクを創設してはどうだろう？あるレベル以上の大会でクラス毎に、例えばプラチナ、ゴールド、シルバー、ブロンズのランクを設定し、そのランクに年間 3 回入ったらその年のバッジ認定となり、バッジを購入できる。競技人口増加促進、レベル向上には極めて有効だ。更に、そのマネジメントをスコードが引き、バッジの売り上げ収入を選手強化やマッピング、コーチングに当てれば、一石三鳥にも四鳥にもなるだろう。（注：イギリスのバッジ・イベ

ント）

Sports for Life の時代へ！

昨年のオーストラリアでの WMOC は、全ての面で私の期待以上の素晴らしい経験であった。マスターズが無かったら、私は復活していなかっただろうし、また、ここまで真剣に身体を鍛え直そうとは思わなかっただろう。人間、何を成すにもモチベーションが重要だ。いつかはマスターズ・チャンピオンに成ってやるぞと思えばこそ、まずは日本チャンピオンに、しかもブッチギリで勝つことに、誰でも大いなる価値を見出せるのではないかな。

両親や祖父母の真剣に楽しむ姿を見て、子供たちもスポーツの面白さ素晴らしさを知り強くなっていく。それこそ私がヨーロッパで体験し魅せられた Sports for All としてのオリエンテーリングの魅力だ。要は、一人一人にとっての Sports for Life だ。日本のオリエンテーリングにも、是非とも年齢別チャンピオンシップ制度を根付かせよう！そうすれば、村越の不滅の記録を破るヤツも出てくるかも。（それとも村越の記録が更に伸びるだけか、、、）

注：イギリスのバッジ・イベント

バッジ・イベントに指定された大会において、各年齢別クラス上位 3 名の平均タイムの 25%、50%、100%に入ると夫々、ゴールド、シルバー、ブロンズにランクされ、それを年間 3 回記録するとバッジ認定される。また、選手権大会（6 地区と全英）でクラス優勝者の 25%以内に 3 回入るとチャンピオンシップ・ランクに認定される。チャンピオンシップ・バッジは各クラス毎年数名程度しか認定されず、誰でも皆クラブ・ジャージに付けたがったものだ。